

## イベントレポート 『2009 GT 耐久東海シリーズ 第3戦』

開催日 2009年7月19日(日) 9:30 決勝スタート

天候 曇り時々晴

最高気温 32.8 (12時)

場所 スパ西浦モーターパーク

エントリー台数 22台



2009年7月19日(日)愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークにおいて、2009K耐久/GT耐久東海シリーズ第3戦が行われた。

九州と関東甲信越地方は梅雨明けしたものの、東海地区は梅雨が明けず雲の多い不安定な天候となり、午後の天気予報は雨。各チームは雨の心配をしながらのレースとなった。

また雲が多いものの気温は33近くまで上昇し、ドライバーにもマシンにも厳しいコンディションとなった。



2Cクラス(1001cc~1500ccのNA車と、1200cc以下のターボ車 クローズドクラス) 普通車のカテゴリーでは毎回最多エントリーとなるこのクラスだが、今回はやや台数が減り6台のエントリー。上位ポイントを狙いやすい状況の中で、高得点をGET出来るのはどのチームか。

### 予選

予選 1位となったのは No.3「メタルクラフトRTスターレット」で、タイムは1 05.083。悲願の初優勝に向けて幸先良いスタートをきる。

予選 2位は前回の覇者 No.35「エスエイチアールシビック」で、タイムは1.05.626 をマーク。前回優勝のために積んだウエイトの影響はどれほどか。

3位には1 06.267 をマークした No.449「KIT-CC3 号車スターレット」がいる。金沢工業大学の学生チームであるが、予算が厳しい中でこの記録は素晴らしいと言えるだろう。

以下4位に No.108「丸和レーシングEP82」、5位に No.13「MMS藤井ケン岸本RSカルタス」、6位に No.31「東海YEG自動車倶楽部シティ」と続く。



### 序盤

60分経過時点では、ピットインの有無で大きく周回に差が付き、ピットインをしないで引っ張る作戦に出た3台が上位に位置する結果に。

1位はNo.3「メタルクラフトRTスターレット」で総合トップと並ぶ31Lapを周回。2位にはそこから1Lap遅れでNo.13「MMS藤井ケン岸本RSカルタス」が付ける。さらに1Lap遅れでNo.31「東海YEG自動車倶楽部シティ」が3位に。

4~6位は1回目のピットインを済ませたチームで皆26Lapの同一周回。No.449「KIT-CC3 号車スターレット」、No.108「丸和レーシングEP82」、No.35「エスエイチアールシビック」がしのぎを削る。



## 中盤

120分が経過しても1位はなおNo.3「メタルクラフトRTスターレット」で63Lapを周回。そこから遅れること2Lap差で、2位No.31「東海YEG自動車クラブシティ」と、3位No.35「エスエイチアールシビック」が追いかける。4位は59LapのNo.13「MMS 藤井ケン岸本RSカルタス」で、1Lap差の5位にNo.449「KIT-CC3号車スターレット」、さらに1Lap差の6位にNo.108「丸和レーシングEP82」と続き、チェッカーを受けるまでは全く順位の予想ができない僅差の争いが続く。



## 最終結果

このクラス、トップでチェッカーを受けたのはNo.3「メタルクラフトRTスターレット」。予選からトップを守り通し104周を走りきり、ついに悲願の初優勝をものにした。

2位には101LapのNo.108「丸和レーシングEP82」が入ったが、昨年からの開幕にかけてマシントラブルが続いていただけに、非常に嬉しい2位獲得となった。

3位には100LapのNo.13「MMS 藤井ケン岸本RSカルタス」が、今回はピット運に恵まれなかったが実力は折り紙付きなだけに次戦の逆襲を期待したい。

4位は99LapのNo.35「エスエイチアールシビック」で、ウエイトを下ろした次戦は再び上位に絡むことであろう。

以下5位No.449「金沢大学自動車部シビック」、6位No.31「東海YEG自動車クラブシティ」と続いた。

このクラスは、開幕戦から上位入賞者の顔ぶれが毎回のようになっているため、シリーズポイント争いは非常に混沌としてきた。残り2戦で安定して上位を獲得したチームがシリーズの祝杯をあげられそうである。



## 3Cクラス(1501cc~2000ccのNA車と、1201cc~1500ccターボ車 クローズドクラス)

今回9台のエントリーとなり激戦となったこのクラス。毎戦多様な車種がエントリーするのが特徴のクラスであるが、今回もバラエティーに富んだマシンが勢揃い。

常連参加のロードスター、レビン、シビック、ミラーージュに加え、今回はスターレットターボ2台、MR2にシトロエンサクソと、見ている者を楽しませるような顔ぶれとなった。



## 予選

予選1位は開幕から2連勝しているNo.110「DXLアライメント浜松NA6」でタイムは1'04.614をマーク。2位には僅か0.17秒差でNo.30「チームMMRCミラーージュKRS」が付け、前回リタイヤのリベンジを果たすには絶好に位置につける。

3位には初参加となるスターレットターボのNo.28「アクセントBスターレット」が1'06.162で入り、4位にはSW20NA車のNo.20「久興自動車マイマイMR2」が1'06.306でピタリと付ける。

5位も初参加のシトロエンサクソNo.80「ハガクリニックシトロエンサクソ」が位置し、初参加のチームが健闘した予選結果となった。



## 序盤

決勝のローリングスタート直後曇り空から一瞬雨がパラついたと思った矢先に、予選上位の No.30「チームMMRCミラージュKRS」と No.20「久興自動車マイマイMR2」が2コーナーと3コーナーで相次いでコースアウト。この2台はこれで順位を落とす結果に…。

さらに60分経過を目前に No.30「チームMMRCミラージュKRS」がS字で再度コースアウト。大きく順位を落としてしまう。

そんな中60分経過時点でのトップはNo.28「アクセントBスターレット」。予選以上のタイムで快走し、総合トップとも並ぶ31Lapを周回。

2位には予選9位から大ジャンプアップのNo.41「シーワンKMTYロードスター」が29Lapで入る。

3位にはNo.110「DXLアライメント浜松NA6」が1周遅れの28Lapで追いかける。以下4位には安定した速さを誇るNo.81「ソーワ&フレミングシビック」、5位にNo.808「3CRスターレット」と続く。



## 中盤

120分が経過時点、No.28「アクセントBスターレット」が60分時点で引き続きトップの座を守る。周回数は65周で総合の1位に躍り出る。

2位にはNo.110「DXLアライメント浜松NA6」が2Lap遅れでピタリとマークする。3位はさらに1周遅れでNo.81「ソーワ&フレミングシビック」、4位も1Lap差でNo.96「Team KRS 制動屋RUSH」が位置し、上位の常連チームが名を連ねてくる。5位も4位と同一ラップでNo.80「ハガクリニックシトロエンサクソ」が付け、ここまでは優勝を狙える圏内か…。

## 最終結果

GT耐久最多台数の3Cクラスを制したのは、安定して速いラップを刻み続け、常にトップを射程圏内にレースを進めたNo.110「DXLアライメント浜松NA6」であった。周回数は105周で総合1位には1周だけ届かなかったが、総合2位という堂々の結果であった。

2位には初参加のNo.28「アクセントBスターレット」。このクラスには初参加とはいえ母体チームは2Cクラスでの経験豊富で、ノウハウを大いに活かした結果となった。

3位は2位から1周遅れでNo.81「ソーワ&フレミングシビック」が。毎戦上位には位置するが、今回もあと一歩届かなかった。次回こそは一番高い所を狙いたい。

4位は希少な輸入車で初参加のNo.80「ハガクリニックシトロエンサクソ」。初参加にしてこの結果は、次回以降は他チームからマークされる存在になることは必至であろう。

以下5位にNo.96「Team KRS 制動屋RUSH」、6位にNo.41「シーワンKMTYロードスター」と続いた。

次回第4戦は選抜戦に向けての大事な前哨戦。このクラスは上位2チームがポイント上では独走するものの、残りチームは混沌としている。選抜戦に向けての残り2枠の争いは、最後の最後までわからない！



### 30クラス(1501cc～2000ccのNA車と、1201cc～1500ccターボ車 オープンクラス)

今回5台のエントリーとなったこのクラス。

今年初参加となるチームが2台エントリーし、どこまで上位に絡むことが出来るのか？

#### 予選

予選1番時計を叩き出したのはNo.83「CLN URG シビック」。前回優勝のためハンディウエイトを載せての走行となったが、ハンディをものともせず総合1位となる1'03.455を記録。

続く2位にはNo.98「ハンディが厳しいよレビン」が1'04.781で入る。このチーム今年初参加だが、実は昨年最終戦でスポット参戦して予選総合ベストをマークした実力の持ち主である。

3位と4位は僅差の争い。1'05.357での3位はNo.19「YADOKARIシビック」で、そこからわずかに0.08秒遅れの4位にはNo.93「SDC92 今度は5バルブレビン」が入る。

5位には初参加のNo.52「SWEETSIGNALパルサー」が続く。

#### 序盤

60分時点での1位はNo.19「YADOKARIシビック」で、総合1位となる31Lapを周回。

2位には1周遅れでNo.52「SWEETSIGNALパルサー」が続く。

3位と、4位には同一の28LapでNo.93「SDC92 今度は5バルブレビン」とNo.83「CLN URG シビック」が入る。

5位のNo.98「ハンディが厳しいよレビン」も4位とは1周差に付け、ピットインの有無を考えると混戦の状態である。

#### 中盤

120分を経過した時点でのトップはNo.83「CLN URG シビック」で64周をラップ。

2位のNo.19「YADOKARIシビック」と3位のNo.98「ハンディが厳しいよレビン」は、共にトップから2周差の62Lapで争いを繰り広げる。

そこからさらに2周の差でNo.93「SDC92 今度は5バルブレビン」が4位に付け、さらに1周遅れでNo.52「SWEETSIGNALパルサー」が5位に付ける。

しかしこの直後、2位を走るNo.19「YADOKARIシビック」がストレートエンド右側にコースアウトし、大きく順位を落とす。

#### 最終結果

1位でチェッカーを受けたのは、No.83「CLN URG シビック」。総合でも1位となる106周をラップし、堂々の優勝となった。

2位にはNo.98「ハンディが厳しいよレビン」が103周でゴール。車名の通りにピットストップハンディータイムが響き、103周に甘んじる結果となった

続く3位にはNo.93「SDC92 今度は5バルブレビン」が100Lapで、4位にはNo.52「SWEETSIGNALパルサー」が98周で続いた。

途中までトップ争いに絡んだNo.19「YADOKARIシビック」であったが、コースアウトのダメージが大きく結局はリタイヤとなってしまった。



前回優勝でウエイトを搭載して走行した No.83「CLN URG シビック」が2戦連続での優勝。次回も再度ウエイトを積むことになるが、この独走を止めるチームは果たして現れるのか…。